

## 平成二十九年 度 戸倉小学校卒業式 式辞

温かな日差しが卒業生を祝福するかのようなこの良き日に多くのご来賓の皆様のご臨席、並びに保護者の皆様のご列席をいただき、ここに平成二十九年 度 卒業証書授与式が出来ますことを心より厚く御礼申し上げます。

卒業証書を受け取り、六年生のみなさんがこの戸倉小学校を立派に旅立っていくことの喜びと、みなさんの揃った姿を見るのは今日が最後になってしまうというさびしきが入り交じった気持ちです。



この一年間、「戸倉小学校の顔」として、学習に、児童会活動に、合唱団の活動に、様々な行事に、先頭に立って取り組み立派にその役割を果たしました。

児童会では『明るいあいさつでみんなのきずなを深めよう』を目標にして、「あいさつ応援団」「なかよし清掃」「元気はつらつ大作戦」等様々な活動に、六年生が常に中心となり学年を越えて全校で取り組みました。

運動会では、組体操とリレーの練習が思い出されます。お手本を示し、「こうしたら良いよ」と助言し、「大丈夫できているよ」と励ます六年生。在校生は、その言葉にどれだけ勇気と元気をもらったことでしょうか。

音楽会では、心に響く合奏と歌声が、聞く人の心にしっかり届きました。五年生から届いた手紙には、合奏の「He is pirate」「千本桜」が格好良かったこと。合唱の「地球の息吹」の歌声に心を打たれ感動したことが記されていました。

六年生を送る会の後、一人の六年生が在校生への思いを次のようにつぶっていました。「どの学年も思い出をいっぱい話してくれました。学年が上がってもいい活動をしてくれると思いました。特に五年生は「任せてください」と言っていたので、素晴らしい戸倉小学校にしてくれると思います。」きっと全ての六年生が同じ思いでしょう。在校生のみなさん、六年生は戸倉小学校を君たちに託しても大丈夫。安心して卒業できる。そう思ってくれています。その期待に応えられるよう、戸倉小学校をさらに良くしていきましょう。

今年松組は、戸倉保育園やさゆり幼稚園の園児たちとの交流活動に取り組みました。元気な子、おとなしい子、甘えんぼうさん、様々な子どもたちに、笑顔でやさしく接していました。二月のある日、戸倉保育園の年長さんが突然お手紙を渡しにきてくれましたね。「遊んでくれてありがとう。」大きくてたどたどしい字に、せいっぱいの感謝の気持ちがあらわれていました。園児達の満面の笑顔には、お兄さんお姉さんに会えた喜びに満ちていました。みなさんは、戸倉小学校の一年生にとっても優しくて頼りになるお兄さんお姉さんでした。登校した一年生が嬉しそうに六年生の教室に行って、遊んでもらっている姿が思い浮かびま

す。みなさんは、園児や一年生の喜ぶ顔を見て、自分も笑顔になっていました。誰かの役に立ちたい、喜ばせたいという気持ちが育ち、誰かに必要とされているという満たされた気持ちが自信につながっていきました。

竹組には、五年生の七月に黒豆がやってきました。みんなで力を合わせ育てました。毎日エサを持ってくる。教室に連れてくる。体を洗ってあげる。小屋のわらや土をかえる。寒くないようにビニールをはる。わらをふやしてあげる。黒豆との日々は、やさしい心を大きく育ててくれました。黒豆を通して、たくさんの人と話すようになった人。相手の気持ちを前より理解しようとするようになった人。小屋の掃除や黒豆のお世話を通して、責任感を持つようになった人。そして、何より、黒豆のためにという気持ちで、みんなの気持ちが一つになっていったこと。協力と相手を思いやるやさしい心を黒豆とともに育てていきました。

小学校の六年間、たくさんの楽しいことや嬉しいことがありました。時には、うまくいかないことや悲しいこともありました。色々なことを経験して、大きく成長して今ここにいます。もうすぐ始まる中学校生活では、たくさんの出会いが待っています。わくわくすること、楽しいこと、やりとげる喜び、仲間とのきずな、みなさんを大きく成長させる嬉しい出来事が待っています。しかし、つまづくことや苦しいことがあるかもしれません。いや、必ずあるでしょう。その時は、パラアイスホッケーの上原大祐選手がみなさんに話した「マイナスは最高のプラスになる」という言葉を思い出してください。失敗しても置かれた状況がマイナスであっても、プラスにすることができる。向き合って乗り越えれば大きな成長につながる。そんなたくましい心をもって、中学校生活、その後続く人生を歩んでください。

そして自分の心と体と命を大切にすること。それと同じように周りの人の心と体と命を大切にしてください。

最後になりましたが、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。小さな体に大きなランドセル・・・入学した日のことが走馬燈のようによみがえっている事と思います。笑顔でいると安心し、元気が無いと「何があったのか」と心を痛み、ひたすらわが子の成長を願ってきました。その子どもたちも今日ここに見事に成長して、卒業の日を迎えました。この六年間、いつも温かな気持ちで学校に協力していただきましたことに、心から感謝と御礼を申し上げます。

また、保護者と共に常に子どもたちを見守り育てて下さった、本日ここにおいでのご来賓の皆様、そして地域の皆様方に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

卒業生の未来が希望に満ちた輝かしいものになることをお祈りして式辞といたします。

平成三十年三月十五日

千曲市立戸倉小学校長 町田秀敏